

## グループってどうやって「みる」の？

### グループをみる時に

AFPY のアクティビティを実施している時に、学校の授業中に。教師や指導者（ファシリテーター）には、あらゆる場面で対象の集団を「みる」力が求められます。「見る・観る・視る・診る」と、場面によって様々な「みる」がありますが、「何を」、「どのように」みればよいのでしょうか。本号では、様々な教育活動に共通する集団の見方について考えたいと思います。

### コンテンツとプロセス

津村俊充・山口真人編『人間関係トレーニング』では、グループをみる視点を「コンテンツ」と「プロセス」の2つの側面から説明しています。

①コンテンツ…グループの話題とか、課題や仕事などの内容的な側面（話している議題や取り組んでいる作業）。

②プロセス…グループの中で起こっている人と人との関係的過程（チームの雰囲気やメンバーの意識、お互いの関係性など）。

両者は車の両輪のようなもので、相互に影響し合って物事が進んでいくため、どちらも欠かすことができません。しかし、右図の氷山図に表されるように、私たちの関心はコンテンツに向きがちです。そこに何が起きているかよりも、何をするかのほうに目が向いてしまうものなのです。



### プロセスをみる視点

では、どうすればプロセスを理解することができるのでしょうか。ここでは、コミュニケーション・意思決定・雰囲気の3つの視点をご紹介します。

○コミュニケーション…誰が誰によく話したか、話した時間や回数、誰が誰を支持したか、どのように感情表出がなされているかなど。

○意思決定…決めるのに要した時間、誰が決めたか（少人数での決定、多数決、合意）など。

○雰囲気…不安、緊張感、凝集性、自由さなど。

話し合いの内容や成果のみに注目するのではなく、五感をフルに使って、集団の様子や個々の感情を理解しようとする姿勢こそ、指導者（ファシリテーター）に求められる資質であり、そうして新しい発見や気づきを得られることがグループを「みる」ことの醍醐味だと思います。

社会教育・文化財課のWebサイトで「心の冒険・サマースクール」「AFPY」の取組を御紹介しています。

AFPY の推進

検索

## ★AFPYに係る資料をぜひご活用ください！

県教育庁社会教育・文化財課のホームページでは、以下について、情報発信を行っています。必要に応じて積極的にご活用ください。

### ○AFPYの手引き

AFPYの理論や実施にあたっての基本的な考え方などを紹介しています。実践前にまずご覧ください。

### ○アクティビティ集

活動のねらい、人数、場所、必要な道具、実施手順等をまとめています。新型コロナウイルス感染症への対応として、非接触型の活動は破線の枠囲みで紹介しています。集団の実態や課題に応じて、適切に活用してください。

活動名	みんなわとび	活動の流れ (①ポイント ロアレンジ ●難点)
ねらい (例)	<input type="checkbox"/> お互いに助け合うことについて考える。 <input type="checkbox"/> イスや段ボールを繰り返し、目標を達成する。	①基本のルール ・回す人も含めて全員が跳ぶ。 ・連続で跳ぶ。 ・引っこからない。 ②全員が引っこからずに1回以上跳ぶことができれば成功。 ③エラーが起った時に、グループとしてどんな周りが見られたかに焦点を当てて振り返る。 <input type="checkbox"/> 連続で跳ばなくてもよいなどのルールにするなどで、難易度を調整する。
人数	何人でも	
対象	中学年以上	
時間	1時間程度	
場所	体育館など	
道具	□長縄 1	

### ○AFPY実践事例集

AFPYアドバイザーが実施した授業や出前講座を対象別に参照できるようにまとめています。アイスブレイクから課題解決まで、活動を組み立てる際の参考にご覧ください。

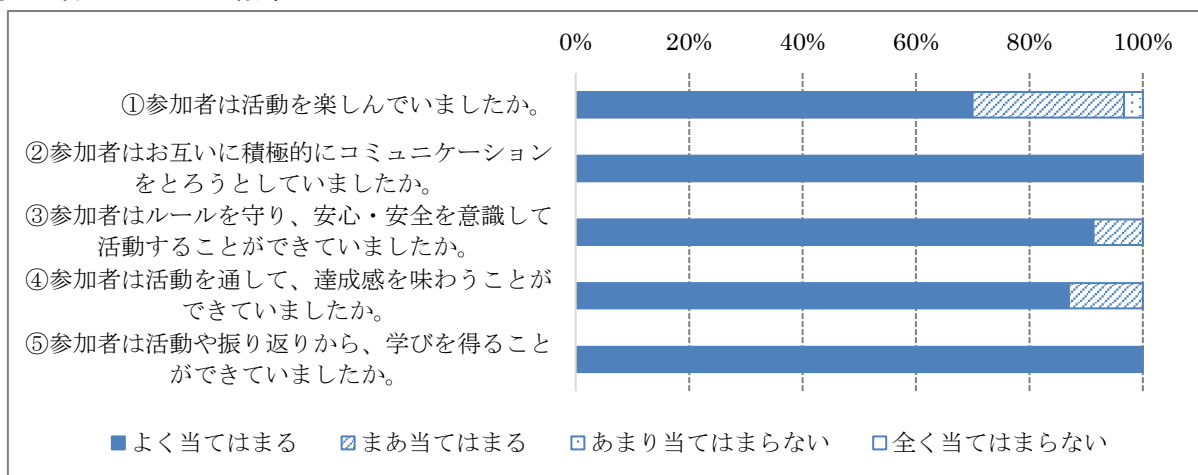
## ★AFPY出前講座を活用してみませんか？

本県には、各地にAFPYアドバイザーと呼ばれるAFPYに関わる相談対応、助言、指導等の役割を担うAFPY指導者がおり、人間関係づくり等の体験活動を希望する学校や各種団体に対して、AFPYアドバイザーを派遣するAFPY出前講座を実施しています。興味のある方は一度お問い合わせください。(Tel 083-933-4650)

### 【R3年度の出前講座実施状況】

依頼件数	実施件数		中止
27件	25件	そのうち講座後の校内研修実施数：8件	2件

### 担当者アンケート結果



### 成果や課題、要望等

- ・集団に入ることや怖がっていた生徒が、活動を進めていくにつれてクラスの輪に入ることができ、楽しそうに活動していた。生徒一人ひとりの個性だけでなく、クラス内での生徒の人間関係や立場も可視化されており、今後の学級運営において大変参考になる活動だった。
- ・活動の中で生徒達が少しずつ知恵を出し合ったり、そっと手を貸したりと関わり合う姿が見られ、生徒たちのまだ知らなかった部分の実態把握ができたように思う。
- ・短い時間でしたが、子どもたちの顔つきや関わり方が変化していき、普段自分から関わりをもつことが難しい児童の成長を見ることができた。Beingの取組を中心に指導を継続していきたい。
- ・行事も少なく人間関係にも偏りがあったが、今回の活動を通して、いろいろな友達に声をかける姿を見ることができた。子どもの感想にも「日頃話さない仲間と話すことができた」「今まで団結力がないと思っていたが、今日クラスの団結力を感じた」などの感想が多くあった。